

鹿児島市「新島」利活用策

鹿児島市

令和2年1月

目 次

1. 目的	1
2. コンセプト	
3. 基本方針	
4. 利活用の内容と整備場所	2
(1) 想定される利活用の内容	
(2) 整備の場所	
① 広場	
② 案内所	
③ 散策ルート	
5. 維持管理	
6. 経過と今後のスケジュール	
7. ゾーニング	3

資 料

○平成30年度新島利活用可能性調査結果（概要）	4～5
○鹿児島市新島利活用に関する懇談会 委員名簿	6
○利活用策検討に係る協議等経過	7

鹿児島市「新島」利活用策

1. 目的

桜島の北東沖合に位置する新島は、海底隆起により形成された希少な成り立ちで、約 5000 年前の貝化石層を直接見ることができる地質学的に高い価値を有しており、電気・水道・港湾などのインフラが整備されていることなどから、これらの強みを活かし、錦江湾・桜島の雄大な景観とともに観光資源として利活用し、鹿児島市の新たな魅力を創出する。

なお、希少種の渡り鳥「ウチヤマセンニュウ」の繁殖地であることやそのほとんどが所有者の特定が難しい民有地であることから、自然との共生を基本に鹿児島市有地を中心とした整備・利用を行うこととする。

2. コンセプト

無人島であった島の手つかずの自然を残しつつ、島の成り立ちなど島特有の魅力、錦江湾・桜島の景観を活かし、子どもから大人まで非日常を楽しめる場とする。

3. 基本方針

- (1) 希少種ウチヤマセンニュウの繁殖環境や貝化石層などの貴重な自然資産を保全するとともに、島固有の魅力として活かすため、自然と調和した利活用を行う。
- (2) 島内や沿岸の自然環境を活かし、離島の非日常を体感できる場とする。
- (3) 錦江湾や桜島などの自然、景観を活かした観光資源としての活用を図る。
- (4) 島の約9割が所有者の特定が難しい土地であることから、市有地を中心とした利活用を行う。
- (5) 利活用にあたっては、民間団体や企業などと相互に連携、協力するとともに、アクセスや防災、安全面にも配慮する。



4. 利活用の内容と整備場所

(1) 想定される利活用の内容

- ① 手つかずの自然に囲まれ、日常を忘れゆっくりと過ごす場
- ② 離島という非日常の空間でのさまざまな体験や催しが楽しめる場
- ③ ジオサイトの学習や環境学習、自然学習などの場
- ④ 錦江湾・桜島や周辺海域の小島と合わせマリトレジャーを楽しめる場

(2) 整備の場所

鹿児島市の市有地である分校跡地、公民館などとし、原則民有地の取得、整備は行わず、必要最小限の整備とする。

① 広場 ……分校跡地

思い思いに過ごせる広場とし、イベントなどでも利用できる。

ウッドデッキやトイレ・シャワーブース、菜園などを整備し、キャンプも可とする。

② 案内所 ……公民館を改修

パネル展示等による島の歴史の紹介コーナーや案内パンフレットなどを設置する。

③ 散策ルート ……島の外周及び里道

散策や海底地層などの見学、学習、自然観察などができるよう案内板等を設置し、一部に手すり、階段を整備する。

5. 維持管理

施設設備の管理は民間等と連携して行う。

- ① 案内所の運営
- ② 施設の清掃・管理
- ③ 市有地、外周路にかかる草木の伐採

6. 経過と今後のスケジュール

平成30年度	利活用可能性調査
令和元年度	新島利活用に関する懇談会の開催 サウンディング型市場調査 利活用策の検討
令和2年度(予定)	設計委託、工事
令和3年度(予定)	供用開始

7. ゾーニング

(1) 広場

- ・ 休憩、キャンプ、イベントなどに利用できる。

(施設設備)

トイレ、シャワーブース、ウッドデッキ、
手洗い、菜園など

(2) 案内所

- ・ 島の歴史や成り立ちを
パネルで紹介。
- ・ 救護所、避難所

港

- ・ 定期船の停泊

海底地層
貝化石層

五社神社

井戸

貝化石層

砂浜

(3) 散策ルート

- ・ 案内板による貝化石層等の解説

(施設設備)

一部手すり、階段を設置

破線は従来からある
施設や資源



資料

○平成30年度新島利活用可能性調査結果（概要）

1 調査概要

- ・目的:新島の将来的な利活用の可能性を探るため、現状把握や諸課題の抽出・分析などの調査を行う。
- ・調査期間:平成30年6月4日～平成31年1月31日
- ・受託業者:一般財団法人 鹿児島県環境技術協会

2 島の概要

- ・桜島の沖 1.5km に位置し、周囲 2.3km、面積 0.13km²。
- ・桜島の安永噴火(1779～1782年)の折に海底が隆起して形成された島。
- ・1800年に25名が移住。昭和26年(1951年)は56世帯、人口約250人で、平成25年(2013年)に無人となる。
- ・管、ケーブルが海底を通り、水道、電気、電話は現在も利用可。

3 アクセス

- ・定期航路として、行政連絡船(定員12名)が週3日、1日3往復(浦之前港～新島港)、約10分で運航。
- ・イベント時には鹿児島港本港区発着の遊覧船(定員80人、約90分)が利用されている。

4 土地の区分等

市有地	11筆	10,700 m ²	港湾施設、学校跡地、原野等
私有地	175筆	104,500 m ²	宅地、畑、山林、境内、墓地等 所有者83名(個人80、企業1、神社1、集落1)

5 自然環境

植物	・大半はダンチク群落に覆われている。 ・アコウの大木、モエジマシダはシンボリックな存在。
鳥類	・ウチヤマセンニュー(希少種/夏の渡り鳥)が渡来している。
哺乳類	・ノネコ、クマネズミが生息している。
地質等	・海底隆起により5000年前の貝化石層等の地層が露頭している。
沿岸水域	・消波堤には藻場が形成されている。

6 利活用、保全活動の状況

- ・公民館、ジオパーク推進協議会、NPO等による散策・クルーズツアー
- ・遊漁(釣り)
- ・大学等による地質、植物、昆虫等の調査
- ・NPOによる草払い・清掃など

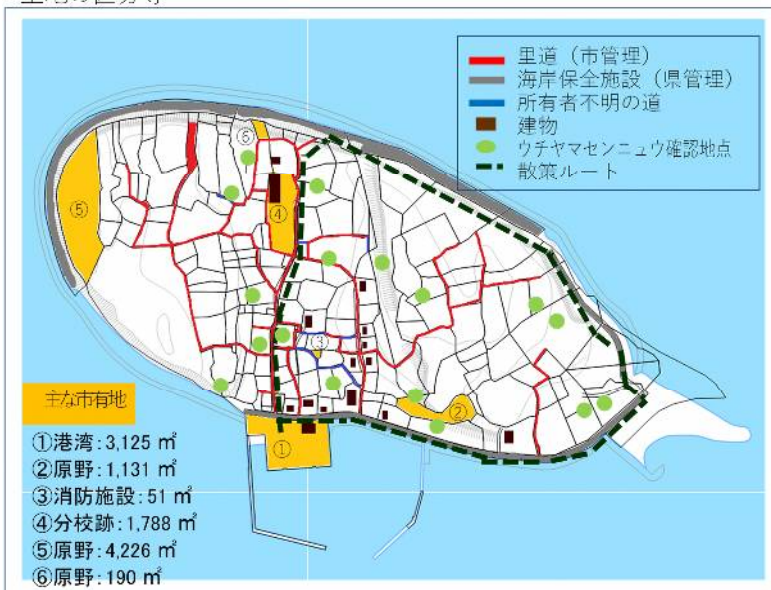
7 評価

地質	・貝化石層などの地層を見たり触れたりできる。
動植物	・ウチヤマセンニュウの繁殖地となっている。
学術研究	・昆虫、植物の生息等の調査が行われている。
レクリエーション	・釣り客が継続的に訪れている。 ・ジオツアー、錦江湾周遊での上陸が行われている。
耕作地	・農作物に被害を与える動物が殆ど生息していない。
インフラ	・電気、水道、電話、行政連絡船などの基本的なライフラインが整っている。
保全活動	・NPOが草払い等を実施し、来訪しやすい環境が維持されている。

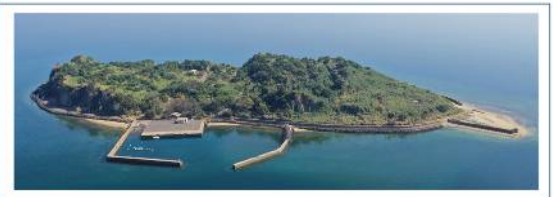
8 利活用を検討する上での課題

環境配慮	・ウチヤマセンニュウの繁殖への配慮
土地利用	・9割が民有地。登記簿の更新がなく、現所有者の把握が難しい。 ・自然公園法第2種特別地域としての開発行為の制限がある。
交通輸送	・大人数利用の際の輸送手段、本港区からの通船
インフラ	・し尿や雑排水の処理、ごみの収集・運搬等
利用、管理のルール	・国立公園やジオサイトを踏まえた貝化石や動植物の保全、島の利用、散策路等の管理のルールや体制などの検討

土地の区分等



航空写真



中央部の里道



分校跡地



海岸沿い



貝化石層



○鹿児島市新島利活用に関する懇談会 委員名簿

(任期：平成31年4月17日～令和2年3月31日)

区分	所属・役職	氏名
地元関係者等	NPO 法人ふるさと再生プロジェクトの会 副理事 (元島民)	東 ひろ子
	桜峰小学校 用務嘱託員 (地元関係者)	宮元 春清
関係団体等	NPO 法人まちづくり地域フォーラム ・かごしま探検の会 代表理事	東川 隆太郎
	斯文堂株式会社 出版事業部 常務取締役	浜川 ゆかり
学生	鹿児島大学 教育学部	加藤 健祐
	志学館大学 法学部	福田 紫苑
関係機関 (市)	政策推進課長	古河 春美
	桜島総務市民課長	米倉 隆
	環境保全課長	原田 隆
	世界遺産・ジオパーク推進課長	湯之上 寛樹
	青少年課長	楠原 豊

(敬称略。役職は就任時点)

○利活用策検討に係る協議等経過

		主な内容
第1回 新島利活用に関する懇談会	平成31年 4月17日	○会の概要 利活用調査結果報告、意見交換 ○主な意見等 ・ジオに欠かせない場所。観光の核になる ・世界に発信してもいい成り立ち ・ゴミの持ち帰り等ヘルールが必要 ・対象を絞り込まず皆が楽しめるものを ・無人島という非日常を感じられる利用を ・地層の情報など看板等で分かるが良い
利活用に関する サウンディング型 市場調査	令和元年 5月27日 ～30日	○2グループから以下の提案・意見があった。 ①付加価値を高めるアイデア等について ・キャンプ場や実験住宅、仮設機材を活用したイベント ・周辺のたぎりなども活用したツアー等 ②整備・管理運営方法など ・イベントの試行実施によるプランの検討 ・管理候補者を巻き込んだ管理者の選定 ・建物ではなくしつらえを重視する ・集客に向けては、道路やトイレを綺麗に保つ ③参入の可能性や課題 ・有料施設の運用にあたっては、集客に向けた自主事業の検討や渡船等の二次交通の確保などが必要
第2回 新島利活用に関する懇談会	令和元年 5月28日	○会の概要 移動船内での意見交換、新島の現地視察 ○主な意見等 ・自然を活かした最低限の整備を ・利活用に向けては船の確保が必要 ・畑(子どもたちに収穫体験) ・定期的な草払いは必要 ・公民館はビジターセンターや管理棟へ ・歩道の歩きにくい場所等は、手すりや階段などが必要
第3回 新島利活用に関する懇談会	令和元年 9月2日	○会の概要 サウンディング調査報告、意見交換、懇談会意見まとめ ○主な意見等 ・北側も含め、一周できるようにした方が、島の成り立ちや地層の特徴を情報発信しやすくなる ・どこにでもあるキャンプ施設よりは、グランピングなど、少人数で島の魅力を楽しめる工夫が必要
第4回 新島利活用に関する懇談会	令和2年 1月21日	○会の概要 「新島」利活用策の確認